

区長さん ちょっと待って

子どもの笑顔大切にしたいから



給食の調理代行
(業者委託)
とっても不安です

四番町保育園の給食調理の業者委託
大切な子どもたち
もっとじっくり考えさせてほしい
だから、2002年4月実施は延期してほしい
みなさんに署名のお願いをしています

「子供の保育環境を考える会」

次へ開く→

千代田区の保育園給食は「とってもよい」と思う

委託現場の視察で千代田の「食教育」のレベルの高さ実感

委託現場を視察し、改めて「千代田の保育園」の「食教育」のレベルの高さを実感しました。栄養士・調理員・保育士、三者のコミュニケーションを十分取ることで、今の四番町保育園の「食教育」が成り立っていると思います。つくってもらった人を思い浮かべ、おいしい給食をいただき、子どもたちの心の中に、食べる楽しさ、感謝の気持ちが育まれていく、そういう目に見えないものには、お金をかけても大切にしてほしい。

(0歳4歳児クラス・金森)



連携の積み重ねができるのは区職員

同じ職場の仲間だからこそ、連携を積み重ね、人と人とのつながりやコミュニケーションができ、保育し、一緒に子育てができと思っています。

離乳食やアレルギー食について、日々成長をしている子どもたちに対し、毎日食べている子どもの様子を調理員、栄養士が確認し食べ物の大きさ、きざみ方、食器、スプーンなど、細やかなことを工夫し、一人ひとりの子どもを見守っています。

(保育士・小宮)

委託現場は…



↑ こいつを手前に引いて次へ

委託2年目の足立区の保育園を視察。2年目にチーフが異動。「安定した調理技術と味が伝えられるか心配」とその園長が語っていました。

日々の連携、配慮ができています

今はその日の献立が「きな粉おにぎり」でも、保育士が子どもの食べ具合をみて、じかに調理員と相談しすぐに「ゆかりおにぎり」に代えてもらったり、おなかの調子が悪い子どもが多い時は、脂っこいナポリタンをうどんに代えたりと日々連携、配慮してくれています。

親の意見を もっとよく聞こう

はじめは、「民間でもいいか」と思っていました。

一日の大半を過ごす子どもの保育環境は、自分の家と同じくらい大切です。コンビニ、ファーストフード、外食産業など、「食」を取り巻く環境はいい状況とはいえません。

そう思って、よく考えてみると、子どもたちに教えていかなければならないこと、残していかなければならないことの一つに、「食の教育」があると思いました。

それを利潤をあげていかなければならない民間業者にできるのだろうかという疑問をもちました。区は、給食にかかる経費を安くしたいために、民間業者に委託していますが、委託されているところをみると必ずしも安くならないことが分かっています。直営のほうがもっと工夫すれば、安全でおいしい給食ができるのではないのでしょうか。

(1歳児クラス・加賀見)

「子供の保育環境を考える会」とは？

千代田区は四番町保育園で、給食の民間業者委託を、唐突に提案してきました。その後の説明会では区の決定事項として押しつけ、納得できる状況ではありません。そこで、私たち四番町保育園の保護者有志は、給食問題を通じて子どもの保育環境について、どうあるべきかをみんなで考えようと「会」をつくり活動しています。



昨年、2週間足らずで1618名の陳情署名が集まりました。ご協力いただいた方々本当にありがとうございました。今年も2月22日（開会予定）の区議会まで署名をたくさん集めています。どうぞ、みなさんのご協力をお願いします。

署名をまわりに 広げてください



子供の保育環境を考える会

連絡先 春木 他5名

ご意見をお寄せください。

FAX・03-3288-5948

EX-ℓ・tomochihiro@mvp.biglobe.ne.jp

私たちが賛成できない7つの問題

石川区長は、2002年4月から四番町保育園の夜8時15分までのさらなる延長保育と引き換えに給食調理を民間業者に委託しようとしています。

私たちが、給食調理の民間業者への委託について、賛成できない点について、お話しします。ぜひ、お読みください。

保護者も保育士も望んでいない給食調理の民間業者委託。

急いで実施して、子どもたちへの影響が起こってからでは取り返すことはできません。



私たちは、区が保育園給食の調理を民間業者に委託する問題については、千代田区で初めてであり、小さな子どもたちに関わっていることです。十分な調査、比較検討を公表し、保護者らと協議し、子どもたちのよりよい給食環境をめざしてすすめていくべきであると考えています。

その1 調理の民間業者委託 本当に区は給食に責任が取れるのでしょうか？

区は、子どもたちに安全で、おいしい給食を提供する義務をもっています。しかし、民間業者の調理員には、直接、区が調理員を指揮・監督することはできません。例えば、仕入れは区で、調理は民間の場合、もし異物が混入し園児が病院に行ったら・・・、誰の責任？最終的に見逃した保育士？材料を検品した栄養士・園長？納入した区内のお店？材料元の企業？「責任は区です」と公言しているけど、それぞれ責任の押しつけ合いになるのでは…。結局、被害者は小さな子どもとその親ということに。

その3 給食は保育・教育の一貫 保育士と調理員、栄養士の協力が必要ではないでしょうか

現在、偏った食生活、輸入食品などの「食」の安全、食物アレルギーの問題など、子どもたちの食生活を取り巻く状況は大変なものがあります。保育園給食の目的は、「食」を通して子どもの成長・発達を実現することです。また、区は、保育・教育の一貫として子どもたちに食べることの楽しさを教え、安全でおいしい給食を提供することが求められています。そのためには、保育士と調理員、栄養士が同じ区職員の方が保育園給食の目的を実現できるのではないでしょう

その4 コスト効率主義優先 子どもの健康と安全は大丈夫？



衛生管理が十分でない食中毒やO-157が心配です。子どものことを考えると、直営でも民間業者委託でも衛生管理は十分すぎるくらい必要です。衛生管理の研修が欠かせません。しかし、民間業者委託では、調理員の研修は会社任せ。調理技術や衛生知識などは、給食の質の根幹。質を下げないと区はいうけれど、どういう方法で区が責任をもって「質」を維持するのでしょうか？

その6 民間業者委託は決して安くはない



区のコスト計算は、短期的な比較をもって、経費節減できると主張しますが、長期的にみて費用がどうなるのか検討すべきではないでしょうか。

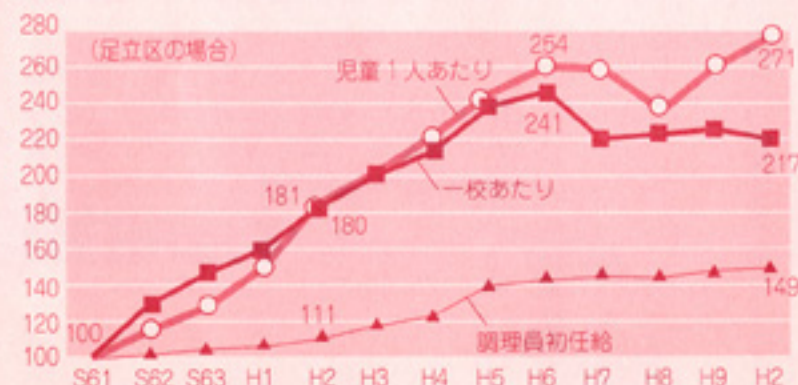
業者委託と直営でのコストの大きな違いは人件費の違いによります。他の区では委託料が高騰中と聞きます。業者継続にも更新料を取られたりしています。

例えば、足立区の学校給食の業者委託費を長期的にみると、委託費の伸びが人件費の伸びを大きく上回っており、こうした傾向が続くと、直営で行うよりも高くなることが予測されています。（下のグラフ参照）

このように、民間業者委託が決してコストが安くなるとはいえないでしょう。



中学校の1校あたり委託費、生徒1人あたり委託費、初任給のそれぞれの変化を指数表にしたもの



その2 アレルギーの子どもにあった 代用食給食が提供できる？

千代田区の保育園では、保護者の申し出により医師の指示書のもと、アレルギー食の除去・代用品を提供しています。特に年齢が小さいうちは、なぜ自分だけ違うものを食べるのかわかりません。食材選び、献立づくり、調理法、園での食べ具合、家庭での様子を調理員、栄養士、保護者、担任、園長、看護婦とで毎月話し合い、状況確認をしあいながら、子どもがおいしくみんなと楽しく食べられるようにきめ細かい配慮をしています。



アレルギー食除去、代替ミス起こらない？

非常勤・パート・不安定雇用の調理員ばかりでは子どもの名前や顔もわからず、除去し忘れたり、医療ミスのように代替食の内容を勘違いしたりしないか心配です。営利事業を目的とした民間業者が毎日、子どもに合った代用食を作ってくれるか、除去だけに終わらないよう契約できるのでしょうか？

その5 無資格・パート・低賃金・委託調理員の不安定な労働条件 安心して安全な給食がつけられるのでしょうか？

安全で、おいしい給食をつくるには、調理員の定着、調理技術・衛生知識をはじめとする質の高い調理員の確保と維持が必要です。

区は「質は落とさない」「子どもにしわ寄せいかない」と公言しているが・・・区は、メリットは、直営職員の調理に比べコストが安いとっています。コストが安く上がるわけは、民間業者の調理員の人件費がとても安く、劣悪な労働条件となっていることです。これでは、調理員がこころ変わり、質の高い調理員を継続的に確保することは困難ではないでしょうか。業者の途中変更もあり、構造的にも調理業務の継続性は担保されません。

また、労働者派遣法では、1年以上同じ人を派遣してはいけないことになっており、質の高い調理員を継続的に確保することは、法律的にも困難です。

ある民間業者の調理員は、「自治体の職場は、新人調理員の研修場所のようなもの」と言っており、業者委託では質の高い調理員が確保しにくいことを証言しています。これでは安全で、安心な給食は望めないのではないのでしょうか。

その7 小さな子どもたちへの給食の視点 忘れてませんか

区は、調理員の経費削減効果のみ強調。行政からは保育・教育としての給食のビジョンが示されず、小さな子どもたちへの給食の視点が忘れられています。「税金を使った安価な給食の提供」は「保育・教育」の放棄につながるのではないのでしょうか。

子どもの食生活に与える給食の大きな「教育力」を考えてほしい

畑・田んぼがない、きれいな池や川がない千代田区。地場産の野菜・肉・米がない。生まれた時から、通園途中にたくさんあるコンビニ・ファーストフード・ファミレスが子どもを囲む。こんな千代田区だからこそ、「食教育」の取り組みが必要ではないのでしょうか。こんな時代だからこそ区には、給食の「教育力」を改めて考え、ビジョンをもって取り組んでほしいと願っています。

